編集後記

本年も後僅かとなりました。この時期には何時もそうですが、本年もあっという間の1年と感じます。管内閣の発足、普天間問題、尖閣列島問題、チリの落盤事故等々、2010年も様々な出来事がありましたが、我々県民を元気付けたのは高校野球興南の春夏連覇で、暑い夏も爽快にすごせた事が、数少ない良いことの一つでした。

本号冒頭で「平成22年度全国医師会勤務医部会連絡協議会」の報告が城間寛先生からなされています。近年の「医師不足」と共に、勤務医の過重労働問題が慢性的に続いていますが、医療費抑制政策を是正し、労働環境の大幅な改善の早急な実現が望まれます。愛媛大学の石原謙教授が述べられておられるように、日本の医療は国際的に高く評価されているが、医療行為あたりの医療費は、米国の1/10で先進国の中で最低のGDP比である。医療費亡国論から医師と医療費の削減が行われてきたが、DPC導入＝萎縮医療→混合診療導入による民間医療保険会社の利益導入といった図式にのらず、国民は民間医療保険よりも公的医療財源にもっと目を向け医療界への財源投資を大幅に増加させるよう、国民・マスコミに強くアピールする事が重要と思われます。

報告事項では、平安明先生、小渡敬先生、玉城信光先生、安里哲好先生が九州医師会連合会各種協議会について報告があります。介護保険対策協議会では療養病床廃止がみなおされ大きな議論はなかったとの事ですが、介護施設の充実も是非重要施策にいれ発展させて頂きたいものです。

「台中市医師公会・沖縄県医師会懇談会並びに懇親会」が真栄田篤彦先生により報告されていますが、宮城会長が述べられているように近年は医療も外国との境が低くなっており、特に隣国との交流は重要で、台中市との姉妹関係は大変意義深いと思います。

「生涯教育コーナー」では玉城仁先生が「間質性肺炎の診断と治療」について詳述されています。間質性肺炎はびまん性肺疾患の代表的疾患の一つですが、その病態は多様で診断において専門的診療を必要とします。咳や息切れを主訴に胸写にてびまん性陰影を呈する患者を診られた場合、一度は専門科に相談され、その後連携をとりながら治療をされる事が重要と思います。

「プライマリ・ケアコーナー」は金城光代先生、照屋周造先生により膠原病診断のための病歴と身体所見および関節リウマチにおける初期治療について解説いただきました。膠原病を疑う所見の取り方とスクリーニング検査、さらには関節リウマチの治療について明日からの日常診療に大いに勉強になりました。

「インタビューコーナー」は那覇市立病院医師会会長の喜屋武幸男先生です。多忙な一般診療、救急診療とともに臨床研修指定病院や地域がん診療連携拠点病院として病診・病病連携を緊密にとり、地域の中心的役割を果たされていますが、今後も益々の御活躍を期待いたします。

仲村秀太先生には、「世界エイズデーに因んで」においてHIV/AIDSの現況を解説いただきましたが、治療の進歩とそれに伴う問題について認識を新たにしました。

「発言席」で村上優先生が「ペシャワール会現地活動報告写真展」へお誘いのメッセージをされています。第1回沖縄平和賞を授与された中村哲医師の神のような貢献の歩みを綴った写真展で生きる希望や勇気が感じ取られるようです。年末のひととき訪ねてみたいものです。

田名毅先生と比嘉啓先生には「地域向け医療講演会による医療情報発信の取り組み」を頂きました。誤りもある様々な情報が氾濫する中100回近くの講演会にて正しい情報を届ける取り組みに感服至極です。

随筆は、長嶺信夫先生にチベット紀行の投稿をいただきました。チベットの伝統文化が壊されず、また復活する事を願ってやみません。

「本の紹介」では湧上民雄先生と石川清和先生から4冊の紹介があります。湧上先生の「葉隠」は人生の一つの指南書として一度読みたくなりました。また石川先生の紹介では農薬の恐ろしさを改めて考えさせられました。全世界が認識すべきものと思います。

今年も医療界の厳しさは続きましたが、来年は少しでも改善がみられるよう協力しあっていきたいものです。

広報委員　久場 睦夫